

バリフリ仕様の2階建て車両

京成バス 高速路線で運行開始

京成バス(千葉県市川市、齋藤隆社長)は3月29日、バリアフリー仕様の2階建て車両「エレガンスダブルデッカー」の運行を高速バス路線の「有楽町シャトル」(東京駅鍛冶橋駐車場―成田空港)で開始した。

披露会が27日、東京・江東区の同社東雲車庫であり、スロープ板を使った車いす利用者の乗降が実演された。

あいさつした加藤浩一常務は「2年前から、今後のバリアフリー化を見据え、どんなタイプが望ましいか議論を重ねてきた。一般路

線バスのように、スロープでスムーズに、時間が短くて乗り降りできるバスに行



き着いた」と説明。「有楽町シャトルは現在2台のリフト付きバスにダブルデッカーが加わり、新たなバリアフリー路線となる」とアピールした。

国土交通省の2020年



⑤車いす利用者と介助者はスロープで1階に乗る。2階の定員は51人⑥「ダブルデッカー」への期待を語る加藤常務(3月27日、東京・江東区)

東京五輪・パラリンピックバリアフリー化施策に並び、実証運行の形を取っている。1階部分に車いす用スペースを設けた。加藤常務は「将来的に再び座席を戻すか、バリアフリー仕様のまま使用するか、実績を踏まえて考えていく」と話した。奥戸営業所の宮崎誠所長から運転者の柳橋利勝さんに記念の鍵が手渡された。

スウェーデン・ベルギーのスカニア・バンホール製の乗車定員はドライバーを除き53人(1階2人、車いす利用者と介助者、2階51人)。先進安全装置の衝突被害軽減ブレーキ、車線逸脱警報、電子制御式安定走行プログラムを備える。